



# 千葉県ニュースリリース

2010 ゆめ半島千葉国体マスコット「チーバくん」 千葉県に住む不思議ないきものです。(坂崎千春さん作)

転載自由

G20 **ちば** 2008

【環境特集 第2号】

平成 19 年 12 月 5 日

発行者 千葉県総合企画部 報道広報監報道広報室  
〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町 1 - 1  
電話 043-223-2042 (中西) FAX 043-227-0146  
Eメール chibanews@mz.pref.chiba.lg.jp

「G20 閣僚級対話」2008.3.14~16 幕張で開催

このニュースリリースをカラーで見ることができます。

[http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/b\\_kouhou/release/mokuzi.html](http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/b_kouhou/release/mokuzi.html)

ニュースリリースは、千葉県の重要施策への取り組みや県内のイベントなどの最新情報を、主に在京メディアの皆様にお届けしています。お問い合わせは、報道広報室または各記事の担当までお願いします。

## 「G20ちば2008」記念事業 / 活発なNPO・県民・行政の取組み

2007年11月に、「G20ちば2008記念事業」として、2つのイベントが開催されました。



講演会『さしせまった地球環境問題を考える』(木更津市制施行

65周年記念講演会)(10日、かずさアカデミアホール)

かずさDNA研究所の大石所長が、「分子生物学を発展させた新しいバイオ燃料」の話を、千葉大学の古在学長が、新しい視点で「植物が教えてくれる人間の生きがいと持続的地域社会」を、堂本知事が、「アル・ゴア氏と一緒に始め、今、千葉県民と取り組んでいる地球温暖化の防止と生物多様性の保全」を、最後に作家の畑正憲さんから、やさしい語り口で、しかし危機感を感じさせる「昆虫や動物とのかかわりを通じて地球が変わ

ってきていること」の話がありました。東京理科大学大学院の馬場教授がまとめを行い、中学生・高校生から高齢者の方まで580名の参加者は、最後まで熱心に聞いていました。

「環境シンポジウム2007千葉会議」(4日、日本大学 & 18日、千葉大学)

千葉県内外の環境教育や環境保全の活動の「交流と啓発」を目的として市民・大学・企業・行政の四者が実行委員会を組織し、1995年から開催しています。メインシンポジウムでは、小学生を対象としたエコ体験スクールや出前講座、ちばコープの環境に配慮した商品や省エネ対策、千葉大学祭の環境対策、タイ王国での環境教育やマングローブ植林などの報告や意見交換が行われました。来年2月5日には、環境教育支援にかかわる国際交流フォーラム(千葉県環境評議会主催)も開催されます。

[http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/e\\_kansei/g20/index.html](http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/e_kansei/g20/index.html)

(担当: 環境政策課G20推進プロジェクトチーム TEL043-223-4705 FAX 043-222-8044)



メインシンポジウム(千葉大10/27)は、用意した会場が満員。別室でモニター参加の方も。

2007年のノーベル平和賞は、地球温暖化問題に取り組んでいるアル・ゴア前米副大統領と、国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)に授与されました。来年のG8北海道洞爺湖サミットでも地球温暖化が主要議題となります。

主要国首脳会議(G8)の気候変動プロセスとして設置された、主要排出国(世界の二酸化炭素排出の8割を占める)20か国、世界銀行、世界エネルギー機関の代表が集まる4回目の会議(G20)が、来年の3月14~16日、千葉市幕張で開催されます。これまで議論した内容を総まとめし、洞爺湖サミットに報告を行う重要な会議です。

今、千葉県では、この会議を機会に、環境問題への取組を地方(ローカル)から発信しようとしています。“Think globally, act locally.” その中心は、県民やNGOの方々です。

今後の主な  
記念事業

2008年

1月29日(火) 三番瀬再生国際フォーラム 主催: 千葉県

3月8日(土) G20ちば2008記念国際フォーラム

~9日(日) 主催: 千葉県ほか

2005 G8 グレンイーグルス・サミット(イギリス)

「G20対話」の開始

(G8気候変動プロセス)



2008 第4回 幕張(最終回)

これまでの総まとめ  
技術・資金・京都後の枠組

G8 北海道洞爺湖サミット

## 森へ行こう！ / ~ 地球温暖化と生物多様性 ~ 私たちにもできる取組み

このコーナーでは、県民の具体的な活動をご紹介します。

千葉の里山、身近な裏山を舞台に、様々な活動が行われています。皆さんも、こんな活動をしてみませんか？

### 森の手入れ / 県民活動リポート

里山一日活動体験(千葉市緑区 / ちば環境情報センター)

冬は、森づくりに大切な季節です。12月2日は雨雲の影もなく、絶好の活動日となりました。『ちば環境情報センター』は、谷津田・里山の保全、谷津田の遊び、自然観察会などを行っています。この日は、森の落ち葉を集めて堆肥づくりと下草刈りです。30名の参加者のうち2歳から小中学生が13名、他に20代の若者、30・40代の子育て世代、その上の世代と、幅広い方たちが集まりました。

小さな子どもたちが一生懸命落ち葉を集め、“よいしょ、よいしょ”と運んでいました。去年つくった堆肥の中に大きなカブトムシの幼虫がたくさん出てきて、宝探しをしているように大喜び。クヌギの木にかけたロープでブランコ遊びも出来ました。



カラタチバナ

雑木林の紅葉もすばらしく、カタチバナの赤い実が目を引きまします。オオアオイトトンボやキタテハなど虫たちの活動も活発でした。

午前中の作業を終え、持ってきた弁当を食べるとき、温かい味噌汁が出て大好評。午後からは、藤づるを採って、みんな楽しくクリスマス・リースを作りました。 <http://www.ceic.info/>



キタテハ

森の手入れ(千葉市若葉区 / 下泉・森のサミット)

9年前に植えた苗木が、小さな森になってきました。この時期は、枝に残った葉からのこもれ日を浴びて、リゾート地の散策路のよう。紅葉も真っ赤に色づき、癒しの空間となっています。『下泉・森のサミット』は、印旛沼の水源涵養林づくりと、自然とのかかわりの中からの参加・体験型の環境学習を実践しています。12月1日、今日は10名の仲間と堆肥の切り返しと森の下枝払いです。



堆肥の切り返し(上下を入れ替える)作業中、ヘビの穴を見つけましたが、中身は空っぽ。引越した後でした。施肥のために穴を掘ると、土色の蛙が、鈍い動きでしたが手足をバタバタさせています。冬眠の邪魔をしてしまったようです。(埋め戻しました。)

今年1年の活動に、木も生きものも、仲間たちも仲良く過ごせたことに感謝しながらお弁当。午後は、森の下枝払いと森掃除です。



キチジョウ草が咲いています。とっても縁起の良い花だそうです。

モンシロチョウが飛んでいるを見つけました。木に産み付けられる冬越しの卵は、見当たりませんでした。12月です。「これだけでは、温暖化の影響とはいえないかもしれませんが、何かが変わってきているのかもしれないね。」

<http://homepage2.nifty.com/S-Morinosamit/>



キチジョウ草

インターネットで、活動の様子を動画でご覧になれます。(12月7日公開予定)

<http://www.pref.chiba.lg.jp/stream/tayosei.html>

千葉県では、全国、他の自治体の先駆けとなる「(仮称)生物多様性 ちば県戦略」の策定を進めています。  
(担当：自然保護課 自然環境企画室・生物多様性グループ TEL043-223-2956 FAX043-225-1630)

[http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/e\\_shizen/tayosei/mein/](http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/e_shizen/tayosei/mein/)